

## 第2回 医療情報利活用推進サブワーキンググループ

- 日時:平成 29 年 11 月 29 日(水) 17:00~19:00
- 場所:中央合同庁舎第 4 号館4階全省庁共用 408 会議室
- 概要:

本サブワーキンググループでは、医療情報の具体的な利活用ニーズの把握・開発、利活用を推進する政策手法の在り方についてご議論いただいた。

会議における構成員の主な意見は以下のとおり。

- 電子カルテの中にあるデータがなかなか出てこないことが大きな課題であり、重要なアウトカム情報にばらつきが非常に大きい。この原因として、電子カルテのベンダー毎にアーキテクチャ設計がバラバラで、本体のデータベースから構造化データの形式で取り出せないこともあり、現状はベンダーに依頼し、個別対応している。国の大きな方針として業界に働きかけを行ってほしい。
- データサイエンティストが少なすぎることも大きな課題。医学知識もデータベースの知識もある人がコーディネーターとして研究者との間に入っていないと、なかなか利活用が進まない。
- 「規格の適正化」という表現は曖昧。医療情報の領域では、これまでも標準化の重要性が主張されてきたこともあり、「標準化」という表現を使うべき。
- データサイエンティストの養成について、ヘルスケア領域固有で実際に生のデータに触れつつ育成するコースを国として育てていくとともに、キャリアパスの形成もセットで考える必要がある。
- ワクチン接種に関する情報は必ずしも体系的・網羅的に取れるとは思えない。特に、任意接種に関するものについてどのような方法で収集していくのか今後検討してほしい。
- 研究指向でない医療機関が認定事業者に情報を提供する動機づけのための施策は重要。
- この仕組みを進めるに際しては、国民に十分な安心や信頼を与えられるように個人情報保護の取り組みを進めていくことが必要。
- 現在存在している様々なデータベースについて、それぞれの特徴に応じて研究者がしっかり研究を進めつつ、その上で、さらに大きな診療情報を含めたデータベースを構築していくことで未来を目指していけばよい。
- 医療情報を二次利用するために、医療現場に負荷が生じたり、治療が遅れたりすることはあってはならないが、一方で匿名加工医療情報の活用を念頭においた標準化や、データの構造化を上流の段階から考えておくことが大事である。
- 情報を提供する段階のみならず、医療現場からデータを適切に収集して、信頼性のあるデータベースを作る段階の能力を考えることも重要。
- 日本の疾病構造が他施設の連携が必要な慢性疾患が中心となりつつある中で、実診療の中でも医療機関等が互いに情報を参照して連携できることが大事。現場の努力等がある程度必要になってくるが、そのためにはメリットを理解してもらう必要があり、基本方針の中で日本の医療情報の質を臨床にも活用でき、かつ、二次利用にも活用できるような質のものにどのように高めていくかという方向性を明確にすることが大事。その際には、少なくともコンテンツとして必要な項目を確保することが大事。

- 医療従事者にデータ分析の方法を教授しても、その後、知識を活かす場がないので、結局病院に戻って医療従事者になっている状況がある。オールジャパンでしっかりとした人材育成プログラムを立ち上げて、現状を変えていくことが必要。
- データの利活用について、どこまでどう進んでいるかを可観測にすること、つまり、オブザーバブルにシステムをデザインすることが重要。
- 人材育成については、そもそもIT人材が日本には少ない。大学における固定の選考枠といった硬直的な構造が課題であり、キャリアパスを考慮しないと養成が過剰になる場合もある。
- 今後データの種類がどんどん増えるとともに、IT化が進化していくことを考慮すると、標準化といっても、スタティックなイメージではなく、変化に強い構造を構築する必要がある。
- 利活用の展開のイメージがまだ不明瞭であり、ケーススタディーを行うことで、収集すべきデータについての課題もより分かってくるのではないか。同時にデータをきちんとしたものにしていくことも重要ではあるが、多少汚いデータでも現実に今あるデータをいかに利活用していくかを具体の事例に即して議論していくことが重要ではないか。
- 認定機関が医療機関に対してデータの提供を働きかけると想定されるが、データを提供する医療機関側へのインセンティブなども含め、十分なデータを集められるような仕組みとしていく必要がある。
- データサイエンティストの活躍の場を確保していく上で、「教育」という視点のみならず、データを利活用していくことの価値について「啓発」という視点で国民全体の底上げに本気で取り組む必要があるのではないか。
- 医療情報を利活用する際には、費用負担の水準が大きく影響する。
- 多様なデータベース毎に医療情報の取り扱い、操作性、契約の仕方が異なると企業側も困惑するので、共通性を担保したシステムになるようにしてほしい。
- データの標準化について、一般的な情報は各データベースで共通にしつつ、疾患毎の情報はそれぞれで構築するような二段構えの構成があっても良いと考える。
- 二次利用を考慮したデータを作成することの重要性を認識しつつ、医療の進歩・発展に伴って全体のシステムも成長していく必要がある。持続可能なシステムにしていくことが重要であり、そのための制度的な支援も必要と考える。

以上